

平成 29 年 3 月 4 日

ちばてっく & 千葉大学英語教育会

昭和女子大学附属昭和小学校校長

昭和女子大学附属昭和こども園統括園長

昭和女子大学・昭和女子大学大学院講師

小 泉 清 裕

k-kiyo@es.swu.ac.jp

講演「小学校英語で児童が身につけられる力とその順序」

はじめに

- ・小学校教育で大切なこと

1. これからの英語教育に求められていること

(文部科学省の「次期指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」から)

①現状についての文科省のコメント

- ・「コミュニケーション」のための英語にすることを目標にしてきた
- ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を総合的に育成することをめざしてきた
- ・しかし、それほどの変化はなかった
- ・学習者の学習意欲はあまり高まっていない
- ・現状では小・中・高のつながりが薄い
- ・中・高での指導が文法・語彙等の知識偏重指導から脱却できていない
- ・実際に英語をつかうチャンスはあまりない
- ・特に「話すこと」「書くこと」の活動不足

②これからの英語教育で目指すものについての文科省のコメント

- ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を育成することをめざす
- ・小学校、中学校、高等学校のつながりを強化し、一貫した目標を定める
- ・外国語を使って何ができるかを明確にする
- ・語彙や文法の知識ではなく、実際のコミュニケーションの場面でどれだけつかえるかを主眼に置く
- ・「話すこと」を「やりとり」と「発表」の二つに分けて「聞く」「話す」「読む」「書く」を5領域にする

- ・上記の5領域をバランスよく習得することを目指す
- ・小学校の場合、2018、19年度の教材は文科省による作成、その後は各教科書会社作成の教科書の使用となる

*感想：多くの「夢物語」が「次期指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」で語られている。内容は決して悪くないが、これを具現化する方法の検討が十分にされ、その準備はできているかが不安。

2. さまざまな英語教育のスタイル

①学習者の状況の違い

- ・母語としての英語教育
- ・第二言語としての英語教育
- ・外国語としての英語教育

②学習方法の違い

◎Structure-Based Instruction

- ・GTM=Grammar Translation Method
- ・PPP=Presentation-Practice-Production

◎Communicative Instruction

- ・TBI=Task-Based Instruction
- ・CBI=Content-Based Instruction
- ・CLIL=Content and Language Integrated Learning
- ・Immersion

◎Natural Acquisition

- ・Submersion

3. 日本の英語教育が行ってきたこと

- ・福沢諭吉の英語学習の方法は理に合っていた・・・目指したことは「翻訳」
- ・日本語に「訳す」ことが目的としてあった・・・150年間これが根本となっている
- ・高校や大学入試に大いに役立ってきた・・・学習をした証となる
- ・潜在的な力にはなった・・・文字を見ると意味を理解できる
- ・使用する機会が増えてきた・・・他者と直接対応する技術は身につけていない
- ・新しい環境に適した学び方を模索する時期がきた

4. よりよい英語学習を行うために考えるべきこと

- ・目的・目標と学習内容の一致・・・いいこと言っても内容が伴わなければ「絵にかいた餅」
- ・目的・目標・シラバス・教材・教師力・環境を整えることかスタート
- ・古いもので対応しないで、土台から創りあげる

5. 言葉を学ぶ方法

- ・言葉の学習は何から始めるか・・・母語習得の順序を考える
- ・L→S→R→W・・・どのくらい聞いたら話せるか・・・いつから読めたり書けたりするか
- ・母語習得と外国語学習での環境の違い
- ・Catch (receptive skills) と Pitch (productive skills) のどちらから始めるか
- ・小学校国語教育の第一歩を考える・・・学習言語体験は6年間の生活言語体験の後に来る
- ・LSRWの組み合わせ方

6. 5つの領域の力をつけるためのスタート段階でやるべきこと

①Listening について考える

- ・二つの「聞くこと」・・・「音を聞きとる」と「意味を聞きとる」
- ・語の音を聞いてとその音を真似る・・・音を聞きとる
- ・句の音を聞いてその音を真似る
- ・文の音を聞いてその音を真似る
- ・聞いた語の音から意味をとらえる
- ・聞いた句や文から意味をとらえる

②Speaking について考える

- ・口から音を出しているのがすべて speaking ではない
- ・自分が言いたいことを言うのが speaking
- ・「話す」ことのスタートは「語」(word) から
- ・次に「句」(words や phrase) になり
- ・その先に「文」(sentence) になり
- ・さらに「文章」(sentences) になる

③Reading について考える

- ・文字記号の名前を言える
- ・1文字の音を出す
- ・2文字の音を出す

- ・ 語の音を出す
- ・ 音から語の意味をとらえる
- ・ 句や文を音にする
- ・ 音から意味をとらえる

④Writing について考える

- ・ 文字を見て写すことができる
- ・ ひとつの記号名を聞いて文字にできる
- ・ 複数の記号名を聞いて文字にできる
- ・ 1文字の音を聞いて文字にできる
- ・ 複数の音を聞いて文字にできる
- ・ 示された物を音にしてから文字にできる
- ・ 句や文を聞いて文字にできる
- ・ 自分で考えた表現を文字にできる

7. 小学校英語で児童が身につけられること（実際にやってみての感想）

- ・ 聞こうとする意志と音を真似する力
- ・ 音から意味をとらえようとする意志とその力
- ・ 文字を音にする力と音からその意味を理解する力
- ・ 文字を見て読もうとする意志と音にする力、同時に意味も理解する力
- ・ 書いてある文字を写そうとする意志と写す力
- ・ 写したものを人前で読み上げる力
- ・ 相手に自分の言いたいことを伝えたいという意欲の向上（実際にできることは少ない）

8. まとめ

- ・ 小学校で目ざすことを明確にする
- ・ できることを徹底的にやり、できないことはあきらめる
- ・ 中学校の「前倒し」ではなく小学校の「後倒し」を目ざす
- ・ 一つひとつのことを丁寧に行う
- ・ 教師は自分の目の前で結果が出ることを意識してはいけない
- ・ 少なくとも 10 年、20 年先に役立つことを願って今の活動を行う
- ・ 大切なのは「絵にかいた餅」にしないための「活動」を徹底的に模索すること